

資源評価調査委託事業 Ⅱ 漁場一斉調査

漁業資源課 山下 慶太郎

1 目的

土佐湾周辺海域に出現する流れ藻の来遊状況、流れ藻に付着するモジャコの出現状況、サイズ組成等を把握し、ブリ資源の動向把握及びモジャコ漁業の効率的かつ円滑な操業に資する。

曳網を用いた採集調査は平成 21 年から毎年継続されており、本報告では平成 29 年の実績を報告する。

2 方法

(1) 調査期間

前年と同様に毎月の定線調査の際に実施した（定線の位置は図 1 参照、5 月は土佐湾定線及び室戸東定線のみ）。各月の調査期間は以下のとおりであった。なお、3 月の調査は前年度（平成 28 年度）事業に含まれる。

- ・ 3 月調査・・・平成 29 年 3 月 11～19 日
- ・ 4 月調査・・・平成 29 年 4 月 5～14 日
- ・ 5 月調査・・・平成 29 年 5 月 8～13 日

(2) 調査船

漁業指導調査船「土佐海洋丸」80 トン

(3) 採集漁具

曳網（目合：6 本 30 節）

(4) 調査手順

- ・ 目視により流れ藻を探索し、視認点の緯度経度、水温、流れ藻数を記録。
- ・ 1 日当たり 5 個程度を目安に流れ藻を採集し、流れ藻重量、モジャコ付着尾数を記録。
- ・ 帰港後に、モジャコの尾叉長を測定、流れ藻の種を同定。

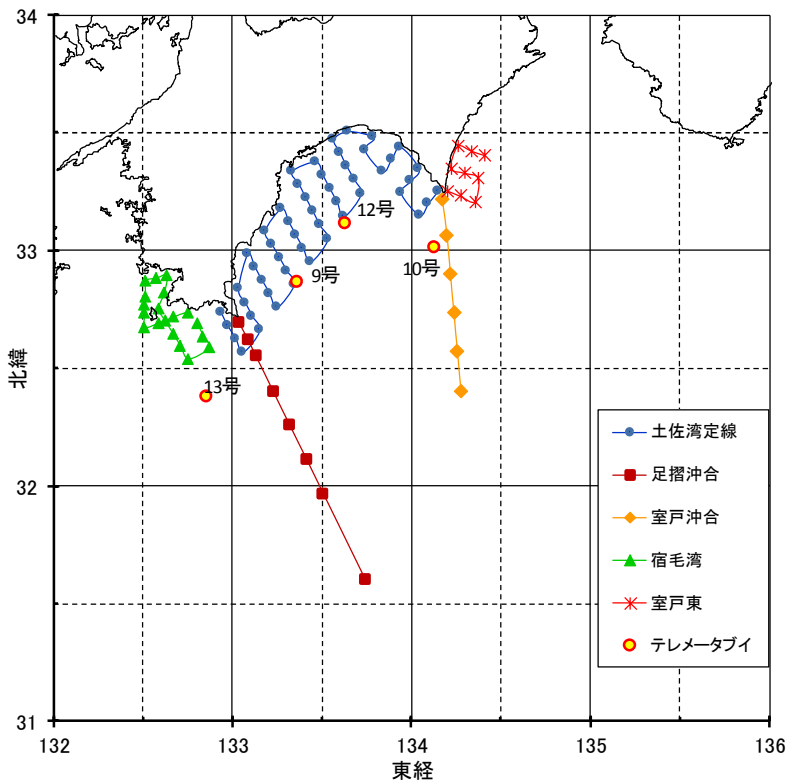


図 1 定線図

3 結果

（1）流れ藻数

月別の流れ藻視認点数は表1のとおりで、どの月も平年（平成18年～平成27年の平均値）を上回り、調査期間を通じて流れ藻の来遊は非常に多かった。特に4月は平年の2倍以上確認された。視認地点の位置は沿岸、沖合問わず幅広い地点で確認された。

表1 月別の流れ藻視認点数

| | H29 | 前年 | 平年 |
|----|-----|-----|----|
| 3月 | 69 | 139 | 45 |
| 4月 | 119 | 47 | 52 |
| 5月 | 48 | 27 | 41 |

（2）モジャコ付着尾数

月別の流れ藻1個当たりのモジャコ平均付着尾数は表2のとおりで、どの月も平年を大きく下回った。特に3月は平成22年以降で最も少ない尾数であった。流れ藻の来遊が非常に多かったことから、モジャコの流れ藻への付着が分散した可能性が考えられる。

表2 月別のモジャコ付着尾数

| | H28 | 前年 | 平年 |
|----|------|-----|-----|
| 3月 | 0.6尾 | 44尾 | 17尾 |
| 4月 | 4.9尾 | 17尾 | 16尾 |
| 5月 | 3尾 | 5尾 | 31尾 |

（3）モジャコ尾叉長組成

- ・3月：3.0～4.0cmと9.0cm以上が多かった。
- ・4月：1.0～10.0cmまで幅広く、2.0cm前後と10cm以上のサイズがやや多かった。
- ・5月：2.0～10.0cmまで幅広く、3.0～5.0cmのサイズがやや多かった。

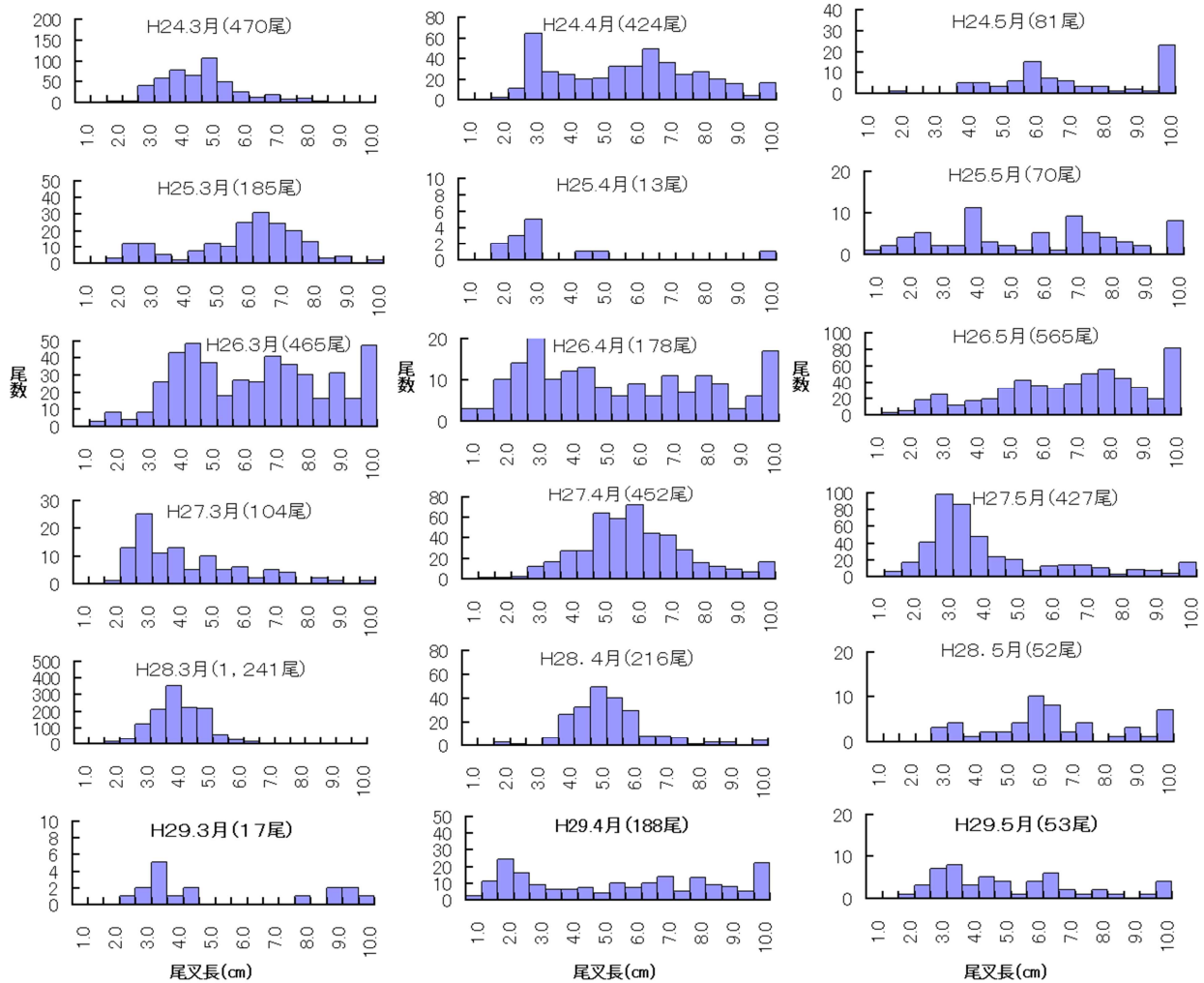


図2 採捕したモジャコの月別尾叉長組成

(4) 流れ藻の構成種

- ・3月：採集した流れ藻は全てアカモクであった。
- ・4月：採集した流れ藻には全てアカモクが含まれ、一部にマメタワラやヒイラギモク等が含まれていた。
- ・5月：種を特定できなかつた3点の流れ藻を除くと、全ての流れ藻にアカモクが含まれていた。一部にマメタワラが含まれていた。